

FUJISOFT Report 2020

第51期中間報告

(2020年1月1日▶2020年6月30日)



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、2020年5月に創立50周年を迎えることができました。1970年の創業以来、独立系ITソリューションベンダーとして、自動車や電子機器等の組込系ソフトウェア開発と、金融、製造、流通等における業務系システム構築を2本柱に、プロダクト事業やアウトソーシング事業、グローバル展開など、時代の要請に応えるため、社是である「挑戦と創造」を続けてまいりました。これもひとえに平素より皆様の温かいご支援と関係各位の格別のご高配の賜物と心より御礼申し上げます。

当社は、更なる成長に向け、全社一丸となり、中期方針である「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、これまでと変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



取締役 会長執行役員

代表取締役 社長執行役員

野澤 宏

坂下 智保

当第2四半期連結累計期間の業績について

当第2四半期連結累計期間の業績について、ご報告申し上げます。

日本経済は、米中貿易摩擦等に加え新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの緩やかな回復基調から急激な減速に転じました。世界経済につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響が世界全体へ広がったことにより、極めて厳しい状況となりました。さらにその終息時期の見通しは立たず、国内外での経済活動の停滞から景気の先行きは不透明な状況となっております。

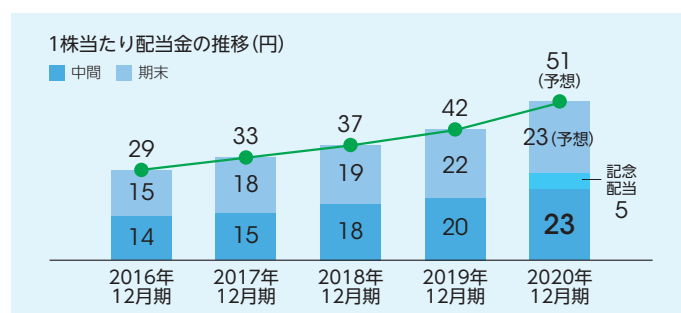
情報サービス産業におきましては、AI・IoT・RPA・クラウドサービス・仮想化技術等のデジタルトランスフォーメーション(DX)による新たなデジタルビジネスの創造や革新の動きは継続しておりますが、不確実性の高まりによる景況感の悪化を背景に企業のシステム投資に対する姿勢は慎重となっております。

このような状況の下、当社グループは事業環境の変化に迅速に対応し、クラウドサービスや仮想化技術を活用したシステムインフラ構築分野、自動運転や電動化を支える基盤技術分野等、需要の高い分野に社内のリソースを集中することで事業の拡大を図るとともに、最先端技術分野のスペシャリスト育成等にも注力してまいりました。さらに、当社はかねてより進めておりました在宅勤務体制の強化により、システム開発の生産性と品質の確保を図り、コロナ禍においても従来どおりのサービスの提供を進めてまいりました。このような活動により、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、次頁の連結業績ハイライトの通りとなりましたことをご報告いたします。

中間配当および創立50周年記念配当について

当社は、将来における安定的な企業成長と経営環境の変化に対応するため、必要な内部留保資金を確保しつつ、経営成績に応じた株主の皆様への利益還元を継続的に行うことを基本方針としております。

当期の中間配当については、創立50周年記念配当として1株当たり5円の記念配当を加え、期初の予想通り1株当たり28円(中間23円・記念5円)とします。また、年間配当は期末配当の1株当たり23円(予想)と合わせ、合計で1株当たり51円(中間23円・記念5円、期末23円)を予定しております。



連結業績ハイライト

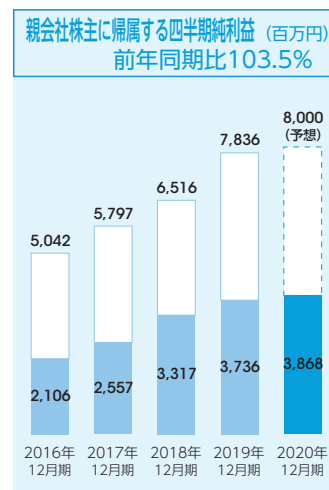
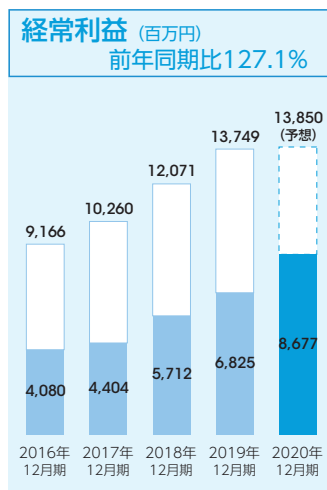
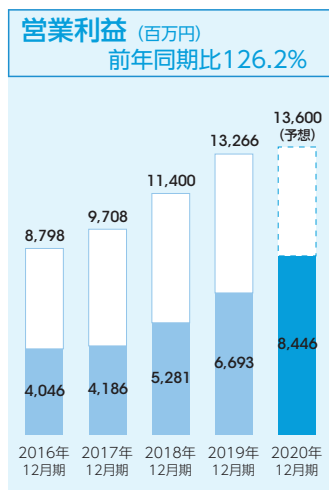
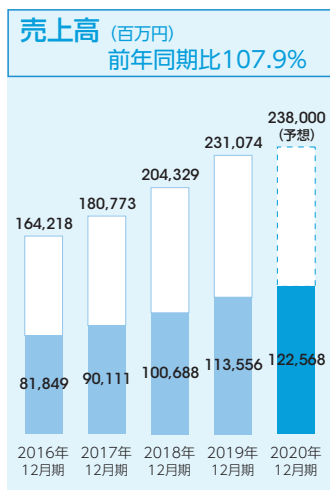
売上高は、ライセンス販売を中心にプロダクト・サービスが好調に推移したに加え、組込系／制御系では社会インフラ、自動車関連、業務系では流通サービス業向け、製造業向けが堅調に推移したことにより、前年同期比107.9%の122,568百万円となりました。

当社ホームページ

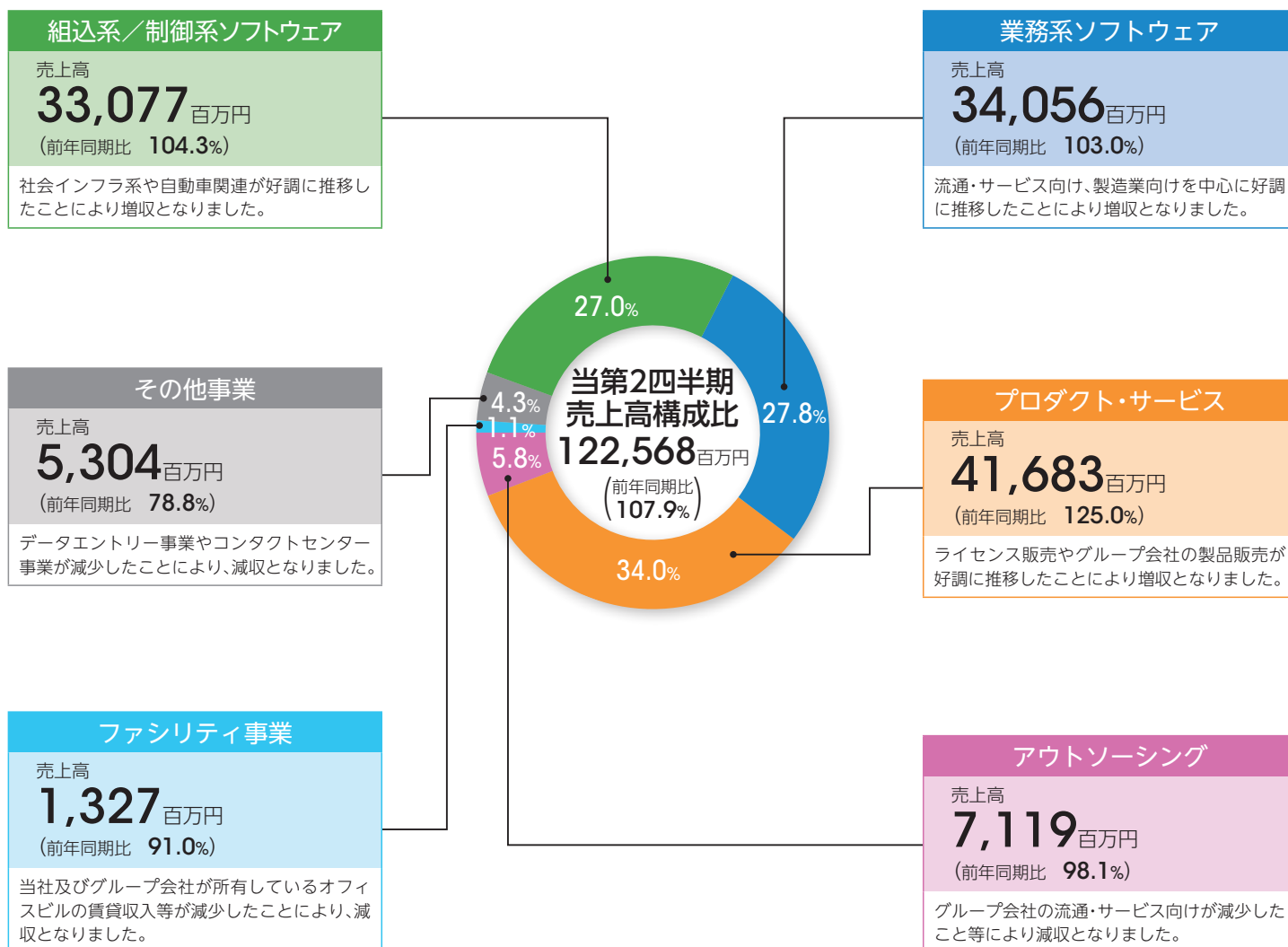


<https://www.fsi.co.jp/ir/library/>

- ◆営業利益は、増収により前年同期比126.2%の8,446百万円となりました。
- ◆経常利益は、前年同期比127.1%の8,677百万円となりました。
- ◆親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比103.5%の3,868百万円となりました。

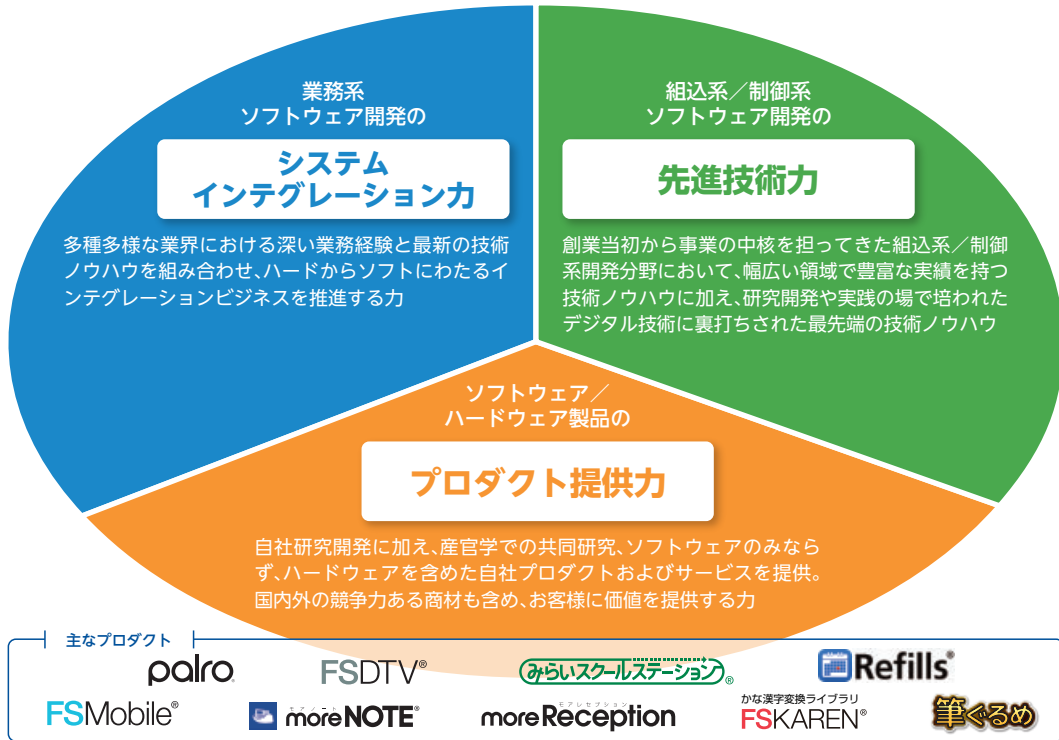


連結セグメント別売上高



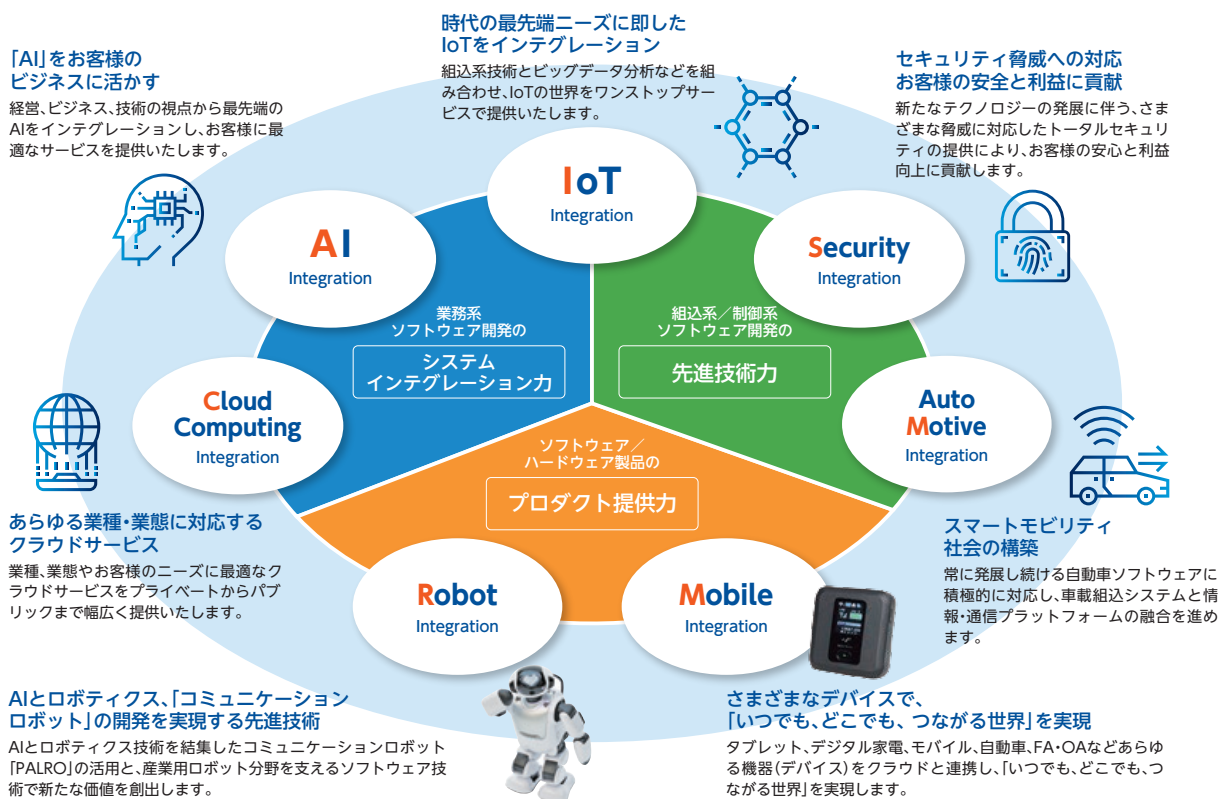
富士ソフトの成長を支える3つの強み

創業当初から事業の中核を担ってきた組込系／制御系ソフトウェア開発における「先進技術力」と、流通業・製造業・金融業などのお客様への業務系ソフトウェアにおける「システムインテグレーション力」は、グローバルな競争時代を勝ち抜くビジネスイノベーションとものづくりを支えています。この2本柱に、研究開発や共同開発で培った「プロダクト提供力」を加えた3つの強みが、当社の持続的成長力の源泉です。



新技術への果敢な取り組み「アイスクリーム AIS-CRM」

当社では、「AI／IoT／セキュリティ／クラウド／ロボット／モバイル・オートモーティブ」の頭文字をとった「AIS-CRM(アイスクリーム)」を、いまもっとも力を入れる新技術分野と位置づけています。これまで培ってきた技術とソリューションを融合し、いままでにない付加価値と新たなビジネスチャンスを生み出していきます。そして、国内外のお客様への最適なサービス、プロダクトを通じて、新たな価値を社会に提供いたします。



CSR活動について コロナ禍からアフターコロナに向けた取り組み

●わが国初、「ハイブリッド出席型バーチャル株主総会」を開催

2020年2月中旬以降、新型コロナウイルス感染拡大が顕在化し、株主様への安全に配慮した株主総会の自粛が取り沙汰されてきました。当社としては、株主の皆様への説明や対話の機会をできるだけ減らしたくないとの強い思い、そしてICT企業の矜持と自負から、「インターネット出席」の導入に踏み切りました。そして、2020年3月13日に開催された第50回定時株主総会において、わが国で初めて「インターネット出席」を実現しました。今回の背景には、資料の閲覧や議決権行使、リアルタイム集計など、株主総会のICT化を2013年より進めてきたことにあります。当日は、11名の株主様がインターネット経由、会場には159名の株主様に出席いただきました。



手元のiPadから議決権を行使するインターネット出席の株主様

●迅速かつ柔軟な対応で感染症対策と事業継続を実現

コロナ禍においては、「社員の安全第一」「お客様の安全第一」を基本方針に掲げ、迅速かつ柔軟な対応を続けております。感染症拡大防止に向けては、全社員が在宅勤務を継続的に実施できるようシステム開発環境を含む業務環境のさらなる整備を進め、2020年4月以降の緊急事態宣言下では、社員の8割にあたる約6,500名が在宅勤務を実施しました。

当社は在宅勤務制度や「ウルトラフレックス制度」*など、社員の「ゆとりとやりがい」の実現に向け、積極的に働き方改革・支援に取り組んでまいりました。この4月には、常時在宅勤務を新たに制度化し、在宅勤務時の生産性の向上と社員の負担軽減にも取り組んでいます。

このように培ってきた技術や自社での経験を活かし、お客様の事業継続についても全力でサポートしてまいります。

*ウルトラフレックス制度とは、コアタイムのないフレックスタイム「スーパーフレックス」を超える柔軟な働き方を実現する制度。「スーパーフレックス」、「私用外出」、「フレキシブル有休」、「リフレッシュタイム」を活用することで、社員一人ひとりの働き方に柔軟に対応できる勤務制度。

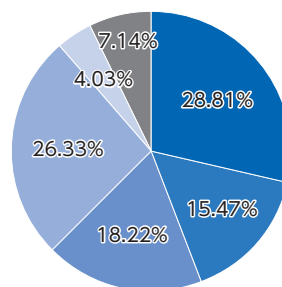
ロボット相撲大会およびロボットアメリカンフットボール大会中止のお知らせ

ロボット作りを通して『ものづくり』の楽しさを知ってもらう場を提供することを目的に1990年より開催している「全日本ロボット相撲大会」、および「ロボットアメリカンフットボール大会」は、新型コロナウイルス感染状況および今後の状況改善が不透明であることを考慮し、2020年度の開催中止を決定いたしました。皆様の安全を第一に再開し、これからも末永く続けられるよう、尽力してまいります。

株式の状況 (2020年6月30日現在)

- 発行可能株式総数 130,100,000株
- 発行済株式の総数 31,294,622株
(自己株式を除く)
- 株主数 8,237名
(前年同期比1,407名増)
- 一单元当たりの株式数 100株

●所有者別株式分布状況



- 金融機関
28.81% (前年同期比 5.0%減)
- その他国内法人
15.47% (前年同期比 0.4%減)
- 個人・その他
18.22% (前年同期比 1.4%増)
- 外国法人等
26.33% (前年同期比 0.9%増)
- 金融商品取引業者
4.03% (前年同期比 3.1%増)
- 自己株式名義
7.14% (前年同期比 0.0%増)

当社の事業活動やCSR活動などについては、以下コーポレートサイトよりご覧いただけます。

スマートフォンからは
こちら



パソコンからは
こちら

富士ソフト
www.fsi.co.jp

検索

富士ソフト 株式会社 www.fsi.co.jp

本社 〒231-8008 神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地

BJJI-AC(L)-801-9C-CRFSI/PPN

証券コード：9749

